外科 大枝 守

Ŧ

一般的に『脱腸』と言われている病気です。

『ヘルニア』とは体の組織や臓器が正しい位置からはみ出した状態をいいます。

場所によって病名がかわり、『鼠径』とは脚の付け根の部分であり、似たような病 気として大腿ヘルニアがあります。

子どもでもなることがありますが(生まれつき)、高齢者に多く、男性に多くみら れます。

原因としては加齢などのため筋肉が弱くなり筋肉に穴があいた状態となり、その穴 からお腹の中の腸や卵巣、大網(脂肪の膜)などが出てきます。

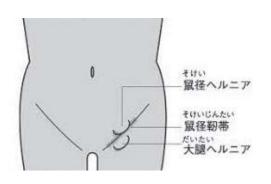
鼠径ヘルニアの症状は腹圧をかけた際(立ったり、お腹に力を入れた時など)にお 腹のものが出てくるため皮膚に膨らみを生じ、腹圧がかからなくなると(横になるな ど)膨らみが消失します。その他違和感、痛み、便秘などが起こることがあります。

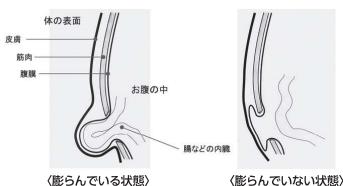
診断は視触診で可能です。場合によっては超音波検査やCT検査を行います。

鼠径ヘルニアは自然治癒することなく、投薬も効果なく、治療としては手術をして 脆弱になった筋肉を補強するしかありません。手術は急を要するものではありません が、手術をしないで放置していると段々膨らみが大きくなります。極稀に嵌頓(出た 腸が戻らなくなり、膨らみが急に硬くなったり、元に戻らなくなったりし、激痛を伴 う)をおこすことがあります。嵌頓をおこすと整復(腸をお腹の中に戻す処置)が必 要になり、場合によっては腸が壊死(血流が悪くなり腸がくさる)するため緊急手術 が必要になることがあります。

年間約13万人以上の方が受けており外科で多く行われている手術です。当院でも 高齢者が多いため鼠径ヘルニアは当院で最も多く手術をする病気です。手術ではお腹 からでているものをお腹の中に戻し、筋肉の穴を人工物を使用して塞ぎ、筋肉を補強 するようにします。手術のアプローチとして鼠径部を直接切る方法(鼠径部切開法) と腹腔鏡を使用して腹腔内から行う方法(鏡視下手術)があります。鏡視下手術は手 術の際に全身麻酔が必要、再発症例や下腹部の手術既往がある症例では難しいことが あるなど全症例でできるわけではありません。鏡視下手術は手術時間が長くかかるも のの、術後疼痛や神経損傷が少ない、入院期間が短い、回復が早い、社会復帰が早い などの利点があり、手術後の再発が少ないとの報告もあります。鏡視下手術はこの 10年ぐらいで急速に増加してきております。

鼠径ヘルニアは、手術でしか治療できず、放置すればヘルニアが大きくなり治療が 難しくなるため、できれば早期に病院受診・手術を受けることをお勧めします。





No.183